



The Final Quarter Project

ファイナル・クォーター・プロジェクトについて

2009年1月3日

(社) 日本アメリカンフットボール協会

The Final Quarter Projectとは?

- ◆ 1934年、日本にアメリカンフットボールが上陸してから今年で75周年
- ◆ 100年を一つの区切りと考えると、ちょうど「第3クォーターが終わり、いよいよ第4クォーターに突入する」タイミング
- ◆ アメリカンフットボールがより国内でメジャー化するために、アメリカンフットボール関係者が一丸となって進めていく、「これからのアメリカンフットボール」のためのプロジェクト「The Final Quarter project」



背景

- ◆ 2007年7月にワールドカップが日本で行われ、成功裡に終了し、人気拡大につながった
- ◆ 少子化の中でフットボール人口（大学・高校）は増加傾向であること
(別紙1参照)
- ◆ フラッグフットボールが、2011年からの小学校新学習指導要領解説書に盛り込まれる(別紙2参照)



The Final Quarter Projectの目標

- ◆ キッズ・ユースフットボールを含めた競技人口の拡大
「（100周年を迎える）2034年に競技人口を現在の約5倍の100,000人にする」
- ◆ 国際化時代にふさわしい競技力の向上
「（100周年を迎える）2034年に日本代表（フル代表およびU-19とも）は世界一を争う」
- ◆ 今後ますます国際化する社会において多種多様なグローバルな人材の輩出



FQP スローガン

「OPEN」

より多くの人に親しみ易く、支持を得られる
「開かれた」スポーツを目指します。

Outspread (競技人口の普及・拡大)

Public (一般の皆様により親しみ易く)

Education(キョウイク=教育・競育・協育)

New Generation(ジュニア・ユース育成)



具体的施策案

1. キッズ・ユースフットボールリーグ・チームの立ち上げ支援
2. 指導者育成プログラムの実施
3. 日本代表チームほかの強化
4. エリート育成プログラムの実施
5. 試合環境（特に競技場）の環境整備
6. 安全指導の一層の推進
7. ファン拡大に向けた各種施策の実施
8. 審判関連の人材の育成
9. 上記を実施するための専任マネジメント体制の確立

※詳細は別紙3参照



2009年に実施する特別課題(1/2)

◆ 国際試合

1. ノートルダム・ジャパン・ボウル（別添4参照）
2. ジュニア世界選手権大会（別紙5参照）
3. グローバル・チャレンジ・ボウル（別添6参照）

◆ 75周年記念応援団の募集

＜JAJFAダイヤモンド倶楽部（仮称）の設立＞

前述に記載したようなイベントや体制を遂行していくには長期的観点からすると財政基盤の強化が喫緊の課題となる

◆ 殿堂入り表彰者の検討（検討委員会の開催）



2009年に実施する特別課題(2/2)

◆ その他

1. コーチズハンドブックの翻訳・製本
2. 安全指導推進のためのコンベンション開催
(2月28日及び3月14日開催予定)
3. キッズ・ユースリーグ設立に向けた準備
4. フラッグフットボールへの支援
5. ノートルダム大コーチズクリニックへの派遣
6. 協会ホームページの充実 (運営含む)
7. 記録の整理 (75周年史) の準備

